



Title	<翻訳> ダ. ナツァグドルジ「世界の三大奇跡」
Author(s)	Д., ナツァグドルジ; 織田, 幸彦
Citation	モンゴル研究. 2023, 32, p. 76-77
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/102402
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

世界の三大奇跡

Д. ナツアグドルジ

(訳) 織田 幸彦

すべてが照り映え心栄える太陽は、真にかけがえのないもの
天候を左右し、生き物をはぐくむ大気 真にかけがえのないもの
草木・動物・人を養う水、真にかけがえのないもの
黄金に輝く太陽の光、いたるところに降り注ぐ

太陽は動物・人・草木を上から見守り、陽気にする
漲るすべての意思は太陽に帰依する
モンゴルの牧民は太陽の下、日々を送り
その強靭な肉体、健康的な顔、多くの胸は息を衝く

壮健なるモンゴル人は平和を嗜みしめ
壮麗なる草花は陽光を望む
祭典は太陽の下、今やたけなわ
ソレイユそれは、幸多き光

息はいのちを保ち
息吹によって人は守られ
慈しみ多き気候は大気が創り
幾尋知らず大気の下、モンゴル人は生きる

広げた肺にすがすがしい酸素を吸い込み
秀でた唄声を朗々と響かせる
緋色に輝く、独立モンゴルの顔
啓かれ、開化した知恵に

(次頁につづく)

気流、太陽、水は三位一体
 気分優れぬ時は、淨き水に身を浸し
 健全、清潔、健やかさは、洗浄から
 健康それは、淨き水あってこそ

広大な源泉から湧き出る淨き水
 抗菌、衛生、病も防ぐ
 向学の人から衛生を学べ
 草木、動物、人、如何なる者も
 隙なく水を求め、雨を乞う
 奇しきかなこれぞ、世界の三大奇跡

原題 өртөнцийн гурван гайхамшиг (Д.Нацагдорж) 1935年

使命感と詩情と—

Д.ナツアグドルジ「世界の三大奇跡」を読むと、子供さん達が「あわあわ手あらいうた」や「はみがきのうた」を唱和しながら、洗面所に並ぶ光景が浮かんできますが、この作品が書かれた1930年代と同様に「保健衛生」が如何に重要なものかを、今回私たちも痛感しましたね。

「世界の三大奇跡」は、留学知識人としての使命感・昂揚感だけでなく、その詩情も十分味わえるものとなっております。

第3連～第7連までは原文に頭韻が踏んでおりましたので、原文を損ねない範囲で頭を子音揃えて訳しました。

(おだ さちひこ)